

「自然体験活動指導者（NEAL リーダー）養成研修」

1 趣 旨

- ・全国体験活動指導者認定委員会が制定した「自然体験活動指導者養成カリキュラム」に則り青少年向け自然体験活動プログラムにおいて、子供の発達段階に応じて安全に指導ができる自然体験活動指導者（NEAL リーダー）を養成する。

2 事業の概要

- (1) 期 日 令和元年9月14日（土）～9月16日（月）＜2泊3日＞
- (2) 会 場 国立三瓶青少年交流の家
- (3) 後 援 島根県教育委員会
- (4) 対 象 自然体験活動に興味がある方、自然体験活動指導者になりたい方（18歳以上）
青少年教育に係る指導員やリーダー
- (5) 参加者 15名（大学生8名 社会人7名） 募集15名程度
- (6) 講 師 (1) 佐藤 しのぶ 氏（くにびき自然学校代表）（講義・演習①～⑨）
(2) 堀江 清二 氏（まなび工房代表，広島経済大学非常勤講師）
（講義・演習①～⑨）
※主任講師 国立三瓶青少年交流の家 久城 秀太（ガイダンス①・②）
- (7) 日程・研修内容 ☆：法人ボランティア登録必須科目（希望者）

【1日目：9月14日（土）】

- 9：30～10：00 集合・受付
- 10：00～10：30 開講式・ガイダンス①(0.5h)
- 10：50～12：20 講義・演習①「自然体験活動の技術①」（1.5h）
昼食・休憩
- 13：30～17：00 講義・演習②「自然体験活動の技術②」（3.5h）
- 17：30～19：00 夕食・入浴・休憩
- 19：00～20：30 講義・演習③「青少年教育における体験活動」（1.5h）
- 20：40～21：40 ☆「青少年教育施設におけるボランティア活動」
- 22：30～ 就寝

【2日目：9月15日（日）】

- 9：00～10：30 講義・演習④「自然体験活動の技術」（1.5h）
- 10：30～12：00 講義・演習⑤「自然体験活動の指導」（1.5h）
- 12：00～13：00 昼食・休憩
- 13：00～16：30 講義・演習⑥「自然体験活動の安全管理」（3.5h）
- 16：30～19：00 休憩・夕食・入浴
- 19：00～20：30 講義・演習⑦「対象者理解」（1.5h）
- 21：00～22：15 情報交換会
- 22：30～ 就寝

【3日目：9月16日（月・祝）】

- 9：00～12：00 講義・演習⑧「自然体験活動の特質」（3h）
- 12：00～13：00 昼食・休憩
- 13：00～14：00 講義・演習⑨「自然体験活動の特質」（1h）
- 14：00～14：30 ガイダンス②（0.5h）
- 14：30～15：00 認定試験(0.5h)

15:10～15:40
15:40～

事務手続き・閉講式
解散

3 事業の特色

① プログラムデザインと企画のポイント

○今回の研修会では、研修会終了後の参加者の姿を次のようにイメージしてデザインをした。

- ・プログラムのねらいを理解し、参加者及び担当するグループのメンバーの支援を行うことができる。
- ・参加者及び担当するグループのメンバーの安全に留意することができる。
- ・体験学習法について理解し、意識できるようになること。

○初日の午前・午後は、指導者視点ではなく、参加者視点でアクティビティを行うようにデザインした。それによりメンバー間のつながりを深めることにつながり、2泊3日をともに学び合う意識を育てるようデザインした。また、指導者視点に切り替えた際、実際の体験を通して、学びを深めることにつながるようにした。

○事業参加者で法人ボランティア登録を希望する者については、ボランティア共通カリキュラム修了と同等程度の理解と認定できるよう、ボランティア養成カリキュラムの科目も選択で受講できるようにした。

○「自然体験活動の特質」では、今までの学びの総まとめの要素も含め、実際にプログラムの企画及びプレゼンテーションを行うようにした。

② 運営のポイント

○各科目及び1日の終わりにはふりかえりを入れ、知識の整理だけでなく参加者同士で学びを深める時間を取り入れた。

③ 広報のポイント

○公益財団法人ふるさと島根定住財団の定期刊行物への同封送付を活用し、島根県内のNPO団体（約280団体）、公民館（約320団体）、地域づくり団体（約300団体）、公益法人・公共施設（約50団体）へ送付。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計

(%) (2) 参加者の声

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	100	0	0	0
プログラム	100	0	0	0
運営	93	7	0	0
職員の対応	93	7	0	0

・プロセスとコンテンツの考え方は、新たな学びや発見となった。その行動や言動の背景には必ずプロセスがあり、そこに着目することで新たな気づきや発見につながると感じた。

・今まで何気なく楽しむレクリエーションとして行っていたものをいざ指導する側にまわるとここまで視点が変わってくるということに驚いた。

5 成果と課題

《成果》

- ・「リスクマネジメントでは、今まで目に見える環境リスクのみしか着目していなかったが、参加者、

指導者に関するリスクまで配慮することが必要であることを学んだ」という参加者のアンケートや試験の結果からも参加者が、リスクマネジメントの重要性について意識できるようになった。

- ・「グループ・プロセス」と「コンテンツ」を意識すること、体験したことを次にどう活かしていくか等ふりかえりの重要性（体験学習サイクル、ジョハリの窓）を学んだ」というふりかえり時の参加者の声や試験結果から参加者が体験学習法について理解し、意識できるようになった。
- ・昨年度、カリキュラムを消化するために、ふりかえりや休憩時間を確保できないことがあったが、今年度は開始時間を早めたことにより、余裕をもって研修会を実施することができた。
- ・ふるさと島根定住財団を通じ広報を行ったため、チラシ等の発送費を抑えるだけでなく、島根県全域への広報が可能となり、社会人の参加者増加につながった。
- ・11名が新規で法人ボランティア登録を行った。

《課題》

- ・「自然体験活動の安全管理」について、通常カリキュラムより30分長く設定したが、シミュレーションも含めると、時間が足りなかった。また、「自然体験活動の特質」において、企画した内容を実際に行う時間まで確保できなかった。参加者の更なる深い学びにつながることを考え、次回は、研修時間や日程について、検討する必要がある。



(担当：事業推進係 久城 秀太)